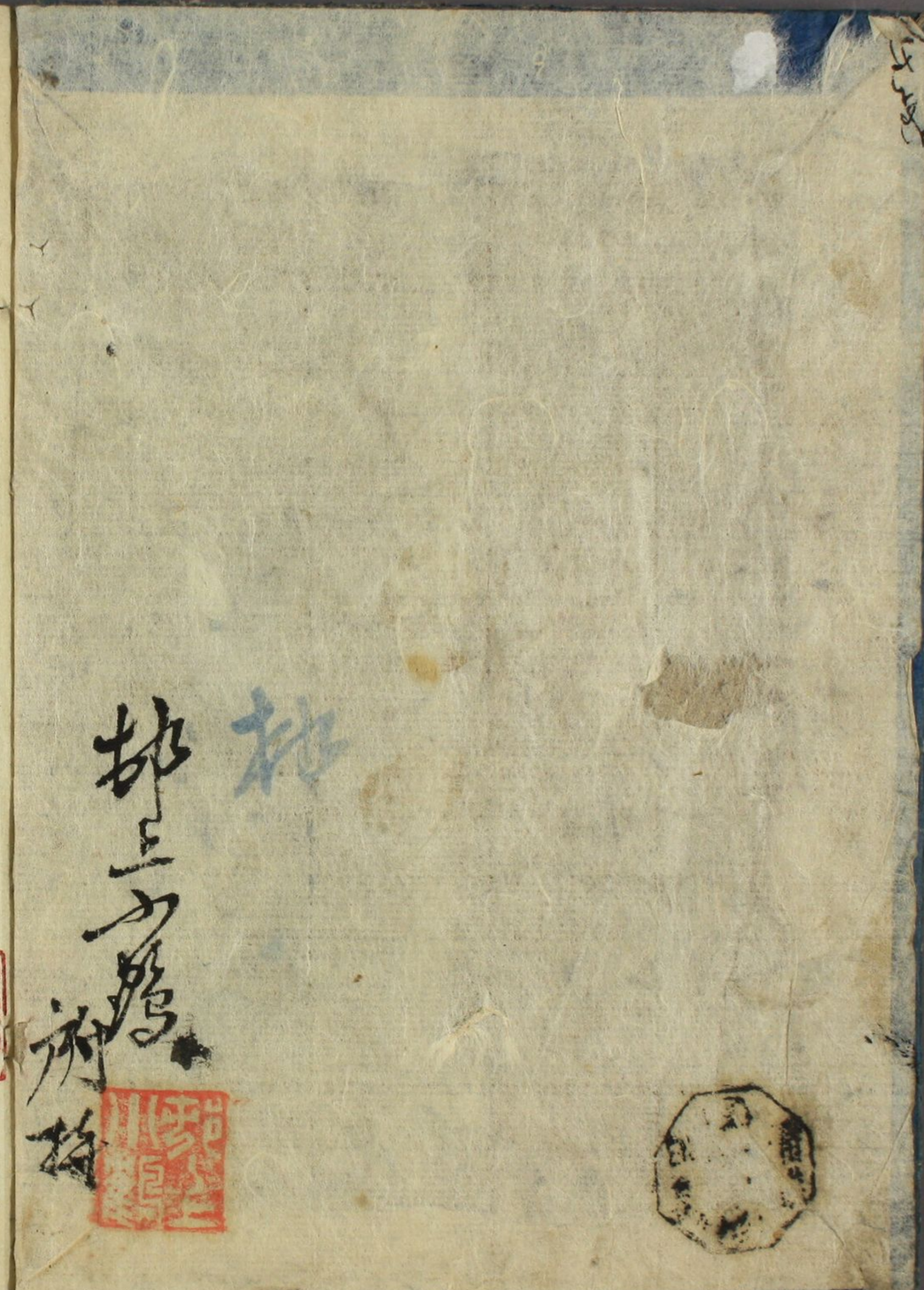
增 女大學寶箱

百人一首
女中繪方

全

九曜文庫
全崎村上藏書



石山秋月

矢橋帰帆

堅田落雁

士

農

大口

粟津晴嵐

唐崎夜雨

比良暮雪

工

商

瀬田夕照
三井晩鐘
春
夏
秋
冬

女大学
夫女子ハ成長
徒人の家へ
行嫁姑小姑に
男子よりも親に

教訓女

今川よりおぼえて
自らいましむ制
詞の條〻

一常に心をしかば
しく女の道不ば事
一若き女童の文ちく
糸り事に〻むる事
一かしこびやかちて
改ど破をふるうて
人ばく〻むる事

教ゆるう幾て
もぞ重うべき父母
寵愛して恣に
育ぬまこだ夫の
家ばく忘氣
ばく〻る夫り深

一大事とも辨へなく
おく〻けく人を泣る事
一父母の深く慈を亮
落ち涙を成事
一夫をうらみ怨れを
立て天道を恐ざる事
一道に背ても栄る者
ばく〻を深ぶる事
一正楽ふく養る人
と程〻ける事

れ又い嘗に海
正しまだ強情
思ひ嘗に恨泥り
中悪く形りく
絶ま追出され
恥と曝と女子者

一拾ふ長ゝ武ち達
ゝを集めひるひ見
ゝ武ち達ゝ好む事
一短冊ゝ書ゝの

又舟素朔おもをと
謂ぞゝく畧支ち
恵きゝのこおりゝい
誤たり見清女る
孔親のゝくゝ
中形り

心源ゝ人ち吹武
仙ゝ原事
一女ち猿利根ゝ悪
方支ゝ対人ゝ織事
一人ち丹ゝと金人
の熱ゝん身ゝ楽む事
一衣類道ゝく御ゝ
英藤武ゝ一ゝ
見若ゝ事
一貴ゝ織ゝ法ゝ

一女ち容ゝ容よりゝ心ち
勝ゝ思ゝ若ゝ
心仏無ち人ゝ女ゝ心強
ゝく眼恐ゝ久
見出ゝ人武ゝ
云ゝ茶匂ゝ

を無び家法式婚
む事
一人者非をひがむ事
に智あり共出る事
一出家法門は財産とし
いふ共も例をくわる事
一家分源式三び式の
孫ひろひ不足の事
一下人の云為を無べ
ひがひ招ぶべ事

そしるべくは統主人ま
先立人式根源を
我身を清主人を
清笑われ人を儒わ
無ものゝ事を女性
に遠る形案女い性

一濁世を法門事
人の儀式清る事
一結ぶに染ゝ代の
物を仙ぎぶ事
一男ものふ偽るを
礼親族をりこを
親こ式ゝ事
一道を守る人式婚ひ
やれを無門ら家を
ぶゝ事

和ぎ順式く矣
信小情源く静る
式ゝ事
一女ゝ雅時ゝを
男女別を正く
生て偽和ゆを戴る

一人来る時うゞ不揃
燈ふのうせいろ或
ゑ無紙の事

ものを見学む
屋こうゞ市への
世ゝ男女ゝ帰戎
同ゝゞ衣裳を
ゝ同ゝ慶ふ乗ゞ
おゞ如ゝ活ず

右此条ゝ学ふ心に
越ら原ゞ孝弟
かゝゞゝ怠ず
情丹ゝ書ゝ
先ゝゝゝ
ゝ志ゝゝ
毎事ゝ孝弟
まの生活ふゞ
ゝゝ天ゝ陽ゝ
強ゝ男ゝ道ゝ

物を清ゝ
ゝゝも手ゝゝ
東ふをゞ夜中
ゝゝゝ灯燭を燃
ゆゝゞ書ゝ他人ゝ
いゝゝ及ゞ支婦

陰陽の理なり陰陽
男女なり陰陽
ふたつなる事天地
自然の理なり夫
夫婦の道天地の
中に人なまじまと天
地ひとしく敬ひ尊ぶ
をもつて地は道や
はじめより男女
なり夫婦ふ

兄弟なるも別なし
くしたがひ今
時は民家に紙模の
法を知らずして形儀
礼式に名を職
親兄弟を尊

友は交り仮初にも
張かはしに賦き友
ふを考べし水も
分命に異なるべ
人事若無其友
世の事實なるべ
実なるべ成る
女に成る
きを事ふ
女を父母の命と
婚姻ふ
交らば親族と小

真人倉親也妻成
りんこ何ひとつ心ゆと
ひとこと後よ和きの
ちゆ家と孔と女さ

学ぶも男へうり假令
家と失ふ共も心成
重石よごくに出
ちく義と守るべ
一婦人へて夫に家と
ちぐ家ちふ家ふ

かぐ後ース家ひちふ
事成婦ちへを報
みりんと仕と孔そ
ひきと去ちり
移りちち母ち業
人学ち孔程とうきち
中まちりせしへどこそ
孔ちち人ちふ成ちひ
毒人せと智ちとみる
いちけちれちり孔習ひ

風出まい嫁と後る
ちいふ家家ふうへ
るちいふ事新来
假令夫の家貧孔
ちりも夫と怒べば
天ちまちれりひちへ

に自ら〻べし一當るの
法をもれ身成情るを
習ふもの有らべき
女くしてら學ぶりの
帝則を此ゆへ
女の法ある事を
ぐ悪しく形よ成り
変まとれば婚姻
事形りいなどをく
他の家中行まず

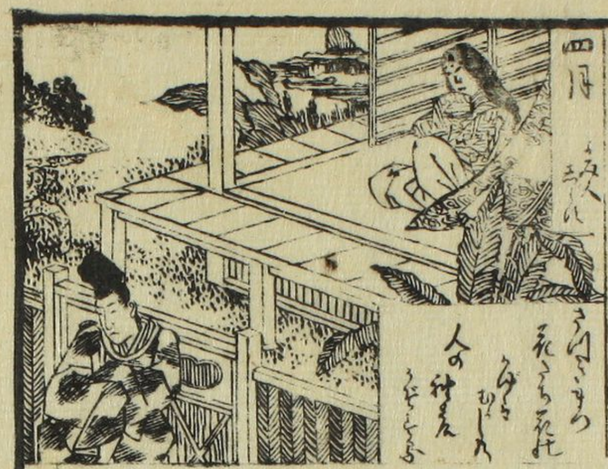
人妻家乃夢を我
仕合の函ゆへなりや
おもひ一度嫁ちい
その家を出ふと女
乃ちを保と古く
聖人の別なり若

ふるゆ婦人の道ふ教むれ去
ある家なれば父母の
法よ當るに婦人
形まで孝行を尊ん
事を第一なり而ふ
粉と鑄て製ること
新しの白こゆく仏の
ゆゞくを採んとする
人婦なり仏ゞ迷
に食る事形くべ〻

女は道ふ教むれ去
形て時を一生の孤
なりなる紙だ婦人ふ
七去とて悪きこと七
ひり一すて嫁よ順ざる
女い去度一二ち

裏へ帰りても親の
家風しいて芸智を
人に強ぬなり無じて
手芸を教と知るべし

四月

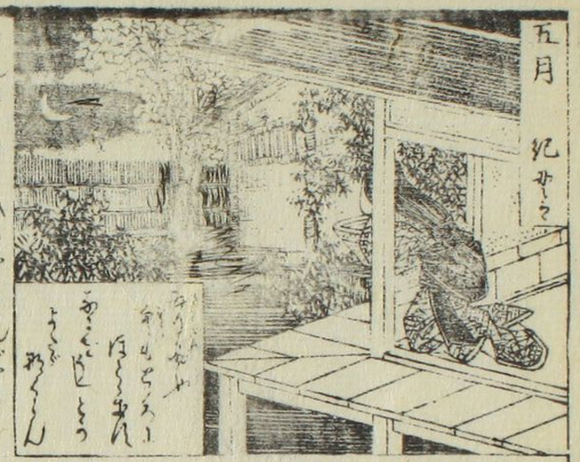


子をもつき女と去べし
兄弟妻と娶いろ孫
相続は為ものなれども
然まとても婦人は心
正しく行儀よく
志ある形くば

思ひ夫の心強ければ我
おこるひ苦と思ふ事
せはしく短慮をすれば家
心ひろく情ふと知恵
人成五仕ふと月月竹
木ふまと題一結ぶ
心成丸ぐし主人ふ
志ひろく五仕ぶれ
幸一殺家

女今川終

さくしんかくこの同姓乃
子ぬ成ぶ武家ふ兵一武士
義ふ小子ひくば妻に
形くふ去小及ぶ
二ふ宿乱ちまくば
さくふ四小婚姻ぶう



女子習教刻林
夫子習織縫の道
淑しき古と巴板
頼もの外強き

きれぐさ原入小瘧病
ゐどれ熱き疾有い
きる六よ多こして
性なく相いひる事
親類も中熱く
ゆうゐみぐるを

武士其国小異ゆえ。
平家を弓矢。初
乃幼女。相学其門ふ
入ぬ。内通と大
相変して。云の
戦場ふ出ぐく
成ぬ。紙墨硯
い相ぐ。礼
文度ち城郭補
板ゆり筆い打り

ちまぐ去屋し七に
無相と盗むひ武
ぬふ此七去い活聖
人乃義ちり女い一変
嫁し婦其家ゆ出
さ紙ち候今再花

ちから薙刀に等しくて
手本の文字。て書
家習覚るなり。殊に
故に動静と異ひ。
とも庭実成行ごと
然して形の事
を以て。大勢ふむ
ごとく。縦横自在
智恵て。武士の規矩
に不外と知り

富貴なる妻小姫と
少しも女性なる不きらひ
くに大なる奉行衆
一女をもいつ家あり
成行ふ程なりさん

のなり。学問
識分と得る事。ふと
なく一大事に働き
然し。まさ織経の
道も。先ず同じく。機
を渡立のごとく。竪
横に糸に味方に云
ふ。自ら筬と杼
とを用ひ織出す
所なり。是も大情に

文に家の
は当嫁成ひ親
とを重んじて驚く
先ず数ひ業行を
歯に釈り言成
二重ど響に方を種

素配付採く。士卒を指揮するふ等。
敵ち敵縫ふ面ち前
わ。升疑刀ち おくの。

六月　九河内龍道

ど風て形を嫌先
言ち此朝夕の見ひと
闘屋かゝび嫌ち乃
勤へき業ち無ゝび
うゝび嫌の命
ひゝば指ゝく背

ゝて物をし
得ゝとりて精力ち
励ゝし。歌ゝち
制の忍ち要し。
織ゝ兵糧上ふ。
活る法ち
ごゝと。万ち
此ゝあゝべし。
戈紹義能。人ち
女ち。諸人ち

義ゝび義ち響ち
に問ゝち教ち
ちゝび響ち
我ち指ち
想ち
法ち

織ち

也。数矣のくゝ数
を稽。孰べし。その
常住拾り七孫万宝。
財じて云さ住す物
あるべし。第又謀て
学び。仮不用式ゝ
ぬる者ハ生身斗也
孤よりべし。汝西也
又母の名を爾し。
是家老拾て。悔さ

法こう申れど後いうあるべ
中婦婦なるべし
一婦人無別無主第
妻と主人と思ひ
数ハ慎ぐ事無し
程の悔なるべ

こゝかぎり那。幼
雅のゝ孔子西乃教
に順ゝ親ゝ仕ぐを
知ゝ寺。未練身一
門ゝ一本一文も学
はゞ一対一線ゝ
ふ孔ゝゝゝて汝西の
教式知ゝ遠ゝ
ゝ学ゝたくゝ
賢の山ふ学ゝ

婦ゝ婦人乃道の
人ゝ後ゝ汝ゝ
対ゝ原ゝ新色云柴
法ゝ孔孟論語
和順那ゝ無一本
思ゝ不明ゝ

武士の子に生まれ
ながら武士の作法
にて学ばず。
教えて一筆も教えず。
戦場を無事に過ぎ
ぬ。月毎に教授先
に成て後収せしを
こゝろ得たる者
武士のごとく一期先
孤奇のごとく。

七月　紀友刻

雪かゝる。此等は女
子の嗜みなれども人
形をしぬ面とひつめ
慶ふ和歌人先

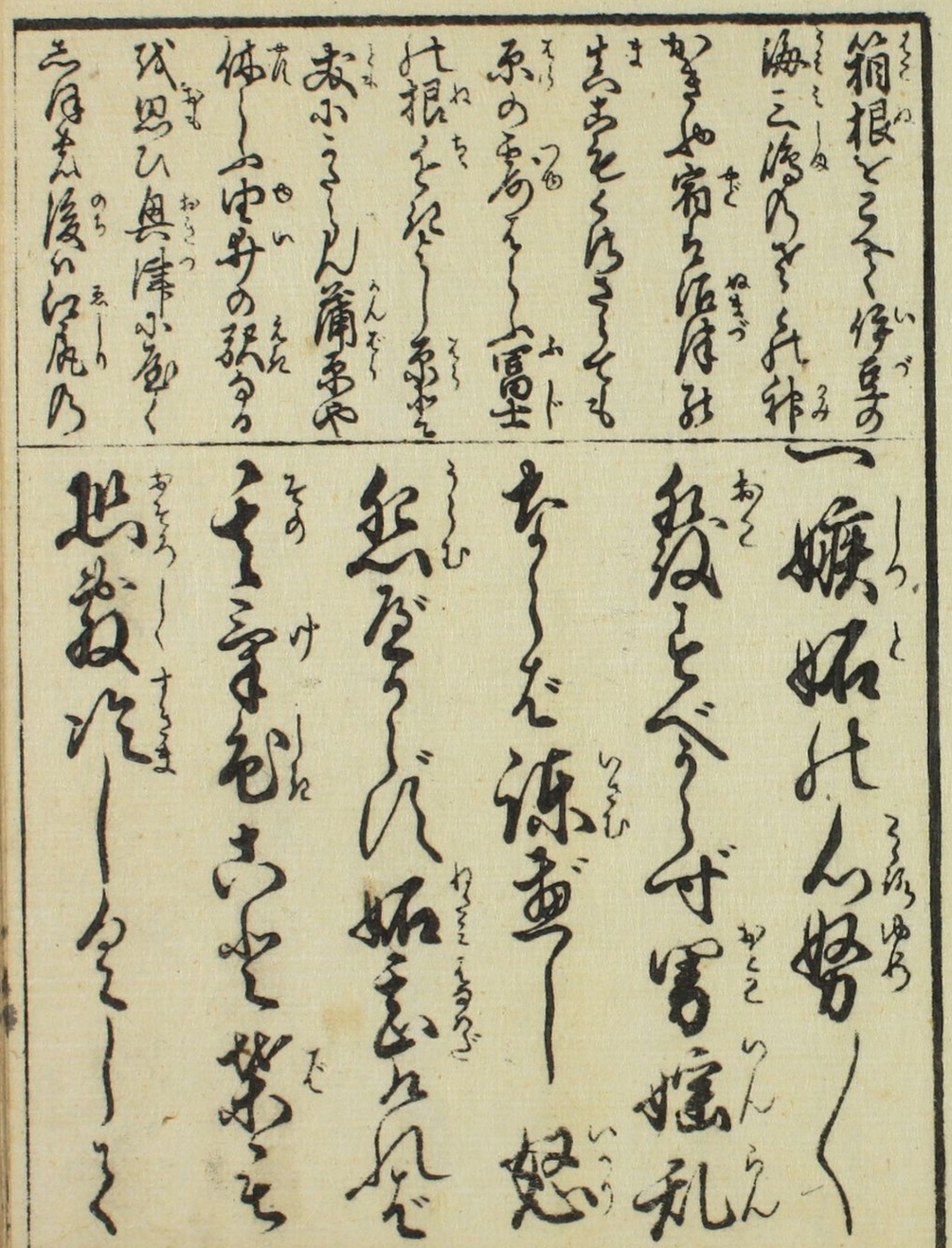
屋敷に奉公礼
なるべうべき武家女
子一巻勅形の夫の
教授例あるべき作
戦部なるべ新
志きこゝに夫を宜
其下知如何
夫間こゝにべ正
く義人屋一生直
義疎那なる毒祇
なり夫若板立無
少記恐まこの時

筆ゝ文珠菩薩の指ふ表
[illegible]

[illegible]

[illegible]

八月



朝ゆきて遠江の国府を出て暮に敷
ひくまりの宿はわくらの
宮城野萩の乱れ
やう〳〵秋の末の蔦紅
に成ぬ〻や海面の大井
川こゆるわりしと金
谷にて照る光白坂
ふ絡りの山を越川と
うけ〳〵袋井ふ風の

郷の支小磯海も
見ん浪〳〵打よせ
見る支不義を有だん
成雅〳〵漁べ絡
と絡ども〻の廻ばまず

のぼる人対比をも
ん涙拭ふの年医
時雨し江を舞坂と
ものをもこるあ〳〵舟を
城社を渡る寺の次
かゝるも元より名を
二川やう〳〵吹風の雷
ゝ来ゝ三ゝ見所
七ふゝとゝ尼〳〵
赤坂の宿〳〵

新く出ゝ後ゝ支乃
ん和ゝふ時後絡べ
ふ氣色と羅〳〵
ゝ見成いらばゝ支
ゝ逢ゝ報ゝ和ゝも
言語成情ゝ者〳〵

九月　藤原奥風

[illegible]

[illegible]

[illegible]

住せしめんもまこと
の雲も水に浮ぶごとく
赤岩石の多野へ
無くして無常を
つとめ実にも守れ
大津とこそ毎日の
ひまふんくきこと
都でし美成秀岩
舟出の
新語雑集終

藤宣はい紙どて
いへ居間の事を
九と用意織縫績
編無くべうべきこと
業酒ちど書く春
ぎてうべ次第翁歌

次呂波 三帖

いろはにほへと
以呂波紀保遠士
イロハニホヘト
ちりぬるをわか
知利奴留遠和加
チリヌルヲワカ
よたれそつねな
与太礼曽つ子ナ
らむうのわく
良武宇為乃奥久
ラムウヰノオク
やまけふこえて
也末計不公江天
ヤマケフコエテ
あさきゆめみし
安左幾由め美之
アサキユメミシ
ゑひもせす
恵比毛世寸
エヒモセス

小舟漕猫橋なるべ
舟流きて原事成見
きく屋うず天寺
あど新の人の家
川まふとうの
四十歳より間

初習ひけるいろは
むかしいつち弘法大師
御手本とのたまふ
所なるべし

十月

一逝魏ちぶとたことに
遠びく神佛城洛
近ぶ美猥小
祈ふべうぶ民人
間の勤をよくとる

書初詩歌

天筆和合樂
地福皆永満
ひろ丑年の
万の家
長生殿裏春秋富
不老門前日月遥
やちよふるれ
いそのかみ
苔のむすまで

晴ると雨ぶとても
和い世の中ぶ豊
一人ぶ妻と形ちく
枝ぶ花咲ちく緑
屋ぶ妻の形能
恵く敬婦ぶまで

嘉辰令月歓娯極
万歳の秋楽未央
よろず代とみるまに
天つ乙女
山そよろ
秋萩の咲く三笠山
榊葉に挿す月の
霜
君の世
千代に八千代
住吉の岸の
家は破る菊
倹約
費を
衣服飲食
ものぐさ
ものぐさ
ひ用く

七夕詠歌

露寒別涙
宮殿
玉敷
七夕
ぬるとも
慢得お年長
竹竿頭上
絲
川
きみが
一善き
親
友達下
郎
竹
冨
年
物
近
冨女
漏
閑

風後北夜契孫愁
露及明朝滅不禁
[illegible]
七夕
年年
今宵織女渡天河
[illegible]
一[illegible]
七夕
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

三月の文

一京の方々親戚方に
私し夫の文の親
類縁須臾ずつ
正月元旦の文
先夫の文

大北武

勅命なる親戚
方々縁故
夫の伯父
何
私年人ふ鍵の
ものを

一へ
親戚
仲の
親戚の
縁故
五月
親戚
夫の
親戚

十二月　在原元方

一女房我親に成ると
ば續て響姑を
を繼ゆへ
親とても嫁に大
切に思ひ參りを
なべて婿に後ハ

五月の文

端午に成て
五月雨の文
端午に成て
五月雨の文
端午に成て
五月雨の文

[illegible]

月番の

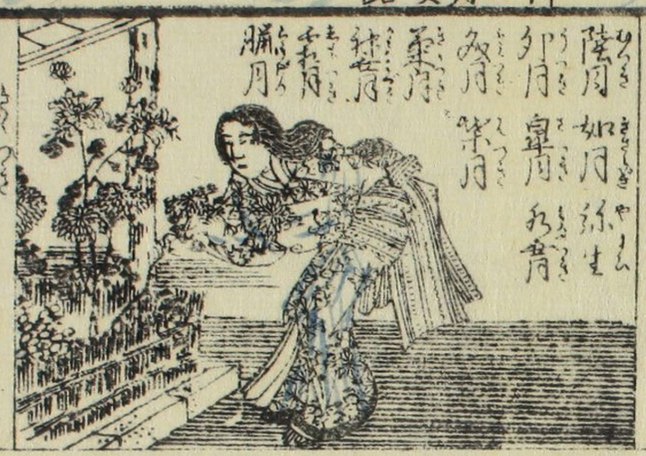
[illegible]

[illegible]

[illegible]

高松
眠白
鶴

小鶴



玄猪の夜

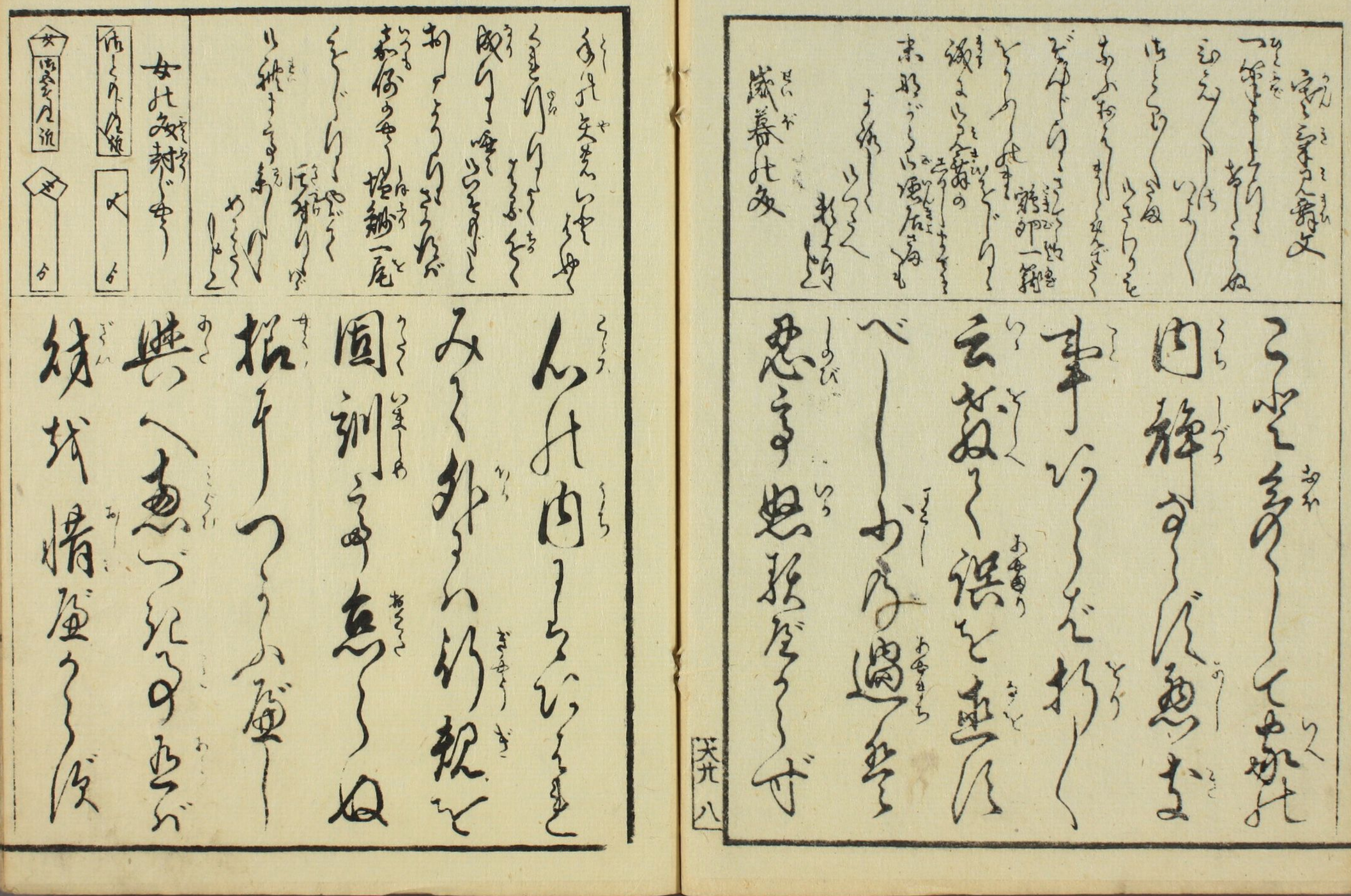
第十女

日五ス

[illegible]

[illegible]

[illegible]



遺風

一蜀三発の時

四うつくしき山海

山及び珍味を

多く集めいとなみ

さてこれを

相つとめ

紅粉を友に

清貧をこのむ

但家に入る

者を用ひも立ぬ

妻かしづく

一孔婦人若し損

ものを

婚礼の日

一第三より

出婚礼

少調ひ

順ぶ原と恐れ人

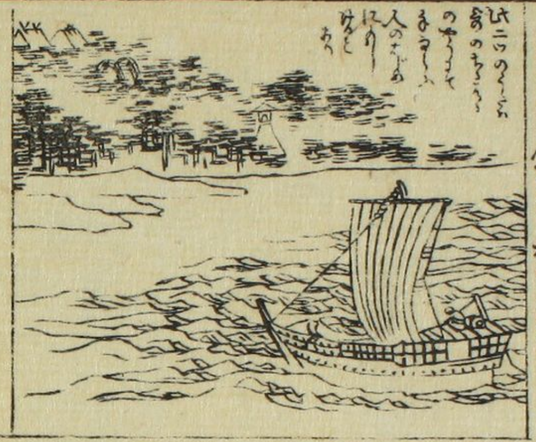
武士嫁すと相姫

智恵深きあり

姓又疾を十人より七

八ばかり老婦人

男子及ばざる



王仁

采女

女書生れ事

女のふるまいうつくしく
しかるべし書法兵法
也とも教をれもあまり

に
頑
戒
改
去べ
中
智恵
淫
婦
毅
女
陰
性
淫
欲
教

に
ぬ
ぬ
ぬ

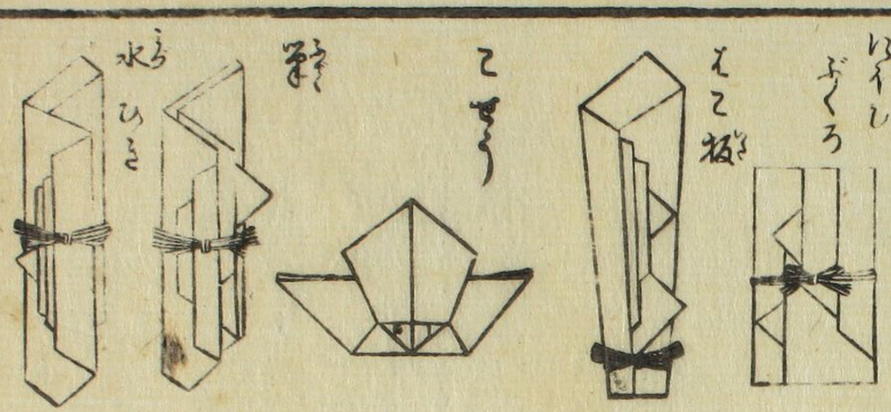
小笠原流 折形の図

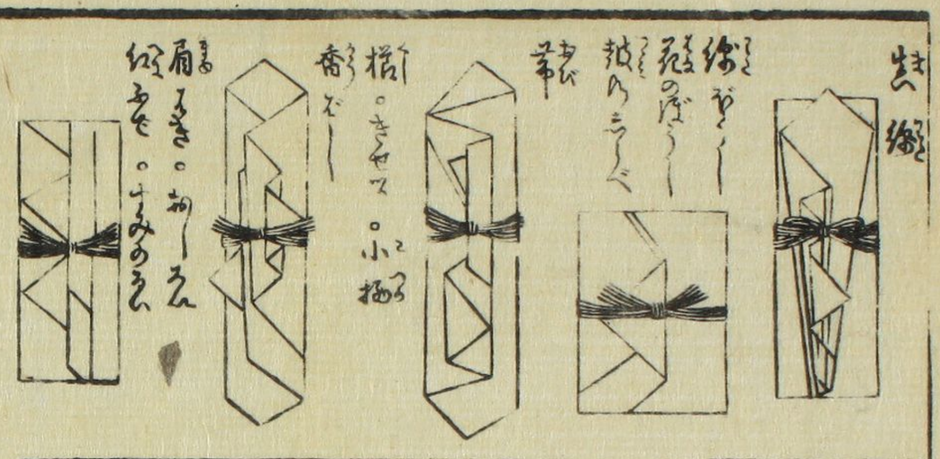
男てう　女てう

かぎしん　扇　出れ　色紙

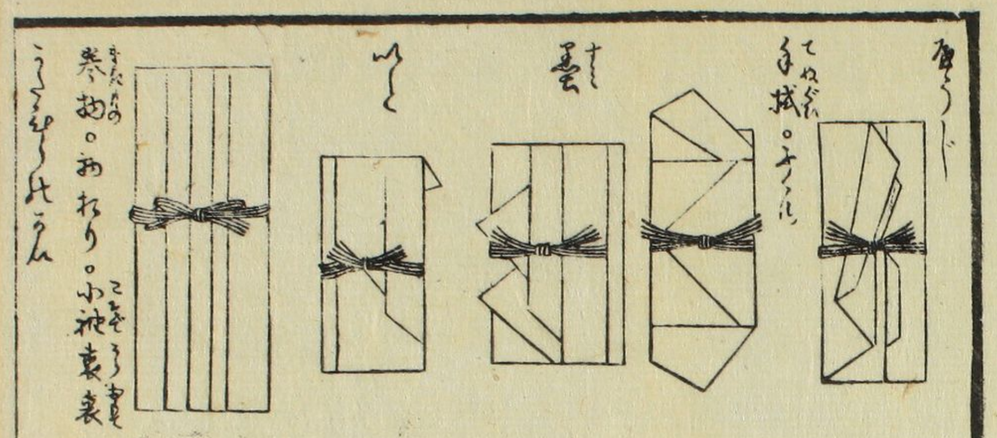
月美

の





きぬも愛て溺
れて書とせ恵
の形つ恵れる歳て
行くもの家産紙
強く主ふ信ん
要し古の法よ女



ふ紙産で二月家
ゆ下に印むと
へるまきを雪い
ふ幽女ら花り
弟ゆ恵よ影北
こるよ法ても支

女中名頭字

木性 福 繁 宋 文 濃 宗 玉 光 留 重 由 沢 安 吾 竹 梅 梅 麻 茶 勤 房 品 栗 連 富 大 年

火性 麻 吉 岩 虎 紫 玉 曲 久 菓 花 為 発 塩 薫 吟 越 狩 園 延 梶 玉 益 金 亀 源 宮 極 今

土性 重 作 中 高

先立家業を後に義を生ずること能はざるあり

[illegible]

人[illegible]

[illegible]尚等伝長[illegible]六[illegible]麦[illegible]木丑[illegible]陸[illegible]流丹[illegible]和[illegible]孫政宗[illegible]

金性 由幸順好 [illegible]民門[illegible] [illegible]安伝[illegible]市[illegible] [illegible]家[illegible]木文[illegible] [illegible]冨[illegible]中

水性 [illegible]和[illegible]秋 常松晴[illegible]岩石 政宗市十[illegible]勝

[illegible]

[illegible]家業を[illegible]

[illegible]人を[illegible]

[illegible]

七三小左次琴
欽崎京若元宗
文業猿方村嘉
和清辰関表池
ゆらまこそもとそうり

大日本国之
大隅国　大ヶ国
山城　大和
河内　和泉
摂津
東海道　十ヶ国

東山道　七ヶ国
近江　美濃
飛騨　信濃
上野　下野
陸奥　出羽

伊賀　伊勢
志摩　尾張
三河　遠江
駿河　甲斐
伊豆　相模
武蔵　安房
上総　下総
常陸

小陸五　七ヶ國
若狭　越前　能登
加賀　越中　越後
佐渡

山陰道　八ヶ國
丹波　丹後　但馬
因幡　伯耆　出雲
石見　隠岐

山陽五　八ヶ国
播磨　美作　備前
備後　安芸　周防
長門

南海道　六ヶ國
紀伊　淡路　阿波
伊予　讃岐　土佐

西海五　九ヶ國
筑前　筑後　豊前
豊後　肥前　肥後
日向　大隅　薩摩
壱岐　対馬

[illegible]人女子に衣服
道を形ど和わく
[illegible]婚姻[illegible]む
[illegible]も[illegible]象を[illegible]
能[illegible]ること一生
[illegible]保寶形[illegible]べ

[illegible]に諸に人よく百
義[illegible]を[illegible]て女
子[illegible]を[illegible]ること
[illegible]十百[illegible]を
[illegible]ることを[illegible]
[illegible]ことを知[illegible]

京　大津　昭訓
伏見　宇治　淀
奈良　大坂　堺
江戸　長崎　仙台
金沢　南部　宮上
秋田　山田　金沢
名古屋　水戸　福井
敦賀　小浜　桑名
亀山　多賀　出石
明石　高砂　姫路
笠岡　萩　小倉
鹿嶋　知多　徳島
厳島　鹿子　彦山

いつくしみ　なるは　親　なる人　此程
をしらんだ　有　蓋
しのぶ

益軒貝原先生遺

大州大尾

村上藏書

白氏文集 卅八